

| | | | | | | | |
|-------------------|----------------------------------|------------------------|--|---------------|------------|----|----|
| 評価対象年度 | 平成19年度 | 施策評価シート | | 政策 | 11 | 施策 | 28 |
| 施策名 | 28 廃棄物の3R(発生抑制・再使用・再生利用)と適正処理の推進 | | | 施策担当部局 | 環境生活部, 土木部 | | |
| 「宮城の将来ビジョン」における体系 | 政策名 | 11 経済・社会の持続的発展と環境保全の両立 | | 評価担当部局(作成担当課) | 資源循環推進課 | | |

| | |
|-----------------------------|---|
| 施策の目的 (目標とする宮城の姿) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資源循環の重要性や3R(発生抑制・再使用・再生利用)の意識が県民や事業者に浸透し、ごみをできるだけ出さない生活様式、環境に配慮した購買行動が定着しています。 ○ 環境・エネルギーに配慮した製品設計(DfE)や製品の環境負荷の総合評価(LCA)に取り組む企業が増加しています。 ○ 廃棄物等の再資源化が促進され、廃棄物の最終処分量が減少するとともに、排出事業者責任の意識が高まり、優良な処理業者による廃棄物処理が進んでいます。 ○ 廃棄物の不適正処理が着実に減少するとともに、廃棄物処理に対する住民理解が促進され、県内において必要な廃棄物処理施設が確保されています。 |
| その実現のために行う施策の方向 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 様々な場面における3R活動を推進するための県民・事業者・市町村等に対する啓発活動の充実 ◇ 日常生活や事業活動における廃棄物の発生抑制, 再資源化等の促進 ◇ 製品の製造, 流通から廃棄までの各段階やサービスの提供に伴う環境負荷低減の促進 ◇ リサイクル施設の整備など3Rを支える社会的基盤の充実とリサイクル関連新技術開発の促進 ◇ 廃棄物の適正処理の推進のための排出事業者等の意識醸成や県民の理解協力の促進と不法投棄等不適正処理の根絶に向けた監視指導の強化 ◇ 廃棄物処理に関する情報公開の促進などによる透明性の確保と必要施設の維持確保の促進 |

| 事業費 (単位:千円) | 年度 | 平成19年度 (決算(見込)額) | 平成20年度 (決算(見込)額) | 平成21年度 (決算(見込)額) |
|----------------|------|---------------------|---------------------|---------------------|
| | 県事業費 | 1,188,673 | — | — |

施策に関する社会経済情勢等の状況(全国・本県の状況, 法令・条例・計画等策定の状況等について)

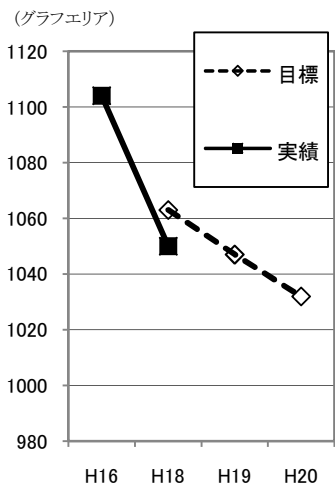
・これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会システムから脱却し、環境への負荷が少なく持続的発展が可能な社会経済システムへの転換を促すことが強く求められている中で、国においては、循環型社会の形成への道筋を示した循環型社会形成推進基本法を制定し、資源有効利用促進法及び各種リサイクル法を整備するとともに循環型社会形成推進基本計画を策定するなど、3R(発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))の推進に取り組んできた。これにより県においても、平成18年3月に「宮城県循環型社会形成推進計画」を策定し、これまでの社会経済システムや生活様式を見直し、県内外各層との連携を進め、宮城の豊かな自然環境を保全しつつ、天然資源の消費が抑制され、環境負荷の少ない持続可能な「みやぎの循環社会」の形成を目指すこととした。

| 県民意識調査結果 | | | | | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|--|-------|-------------------------|--|-------------------------|--|
| 調査対象年度 (調査名称) | | | 平成19年度 (平成20年県民意識調査) | | 平成20年度 (平成21年県民意識調査) | | 平成21年度 (平成22年県民意識調査) | |
| この施策 に対する 重視度 | 重 要 | 重視の 割合 | 50.1% | 84.1% | | | | |
| | やや重要 | | 34.0% | | | | | |
| | あまり重要ではない | | 4.3% | | | | | |
| | 重要ではない | | 1.1% | | | | | |
| | わからない | | 10.5% | | | | | |
| | 調査回答者数 | | 1,739 | | | | | |
| この施策 に対する 満足度 | 満 足 | 満足の 割合 | 11.5% | 44.3% | | | | |
| | やや満足 | | 32.8% | | | | | |
| | やや不満 | | 23.1% | | | | | |
| | 不 満 | | 8.2% | | | | | |
| | わからない | | 24.4% | | | | | |
| | 調査回答者数 | | 1,702 | | | | | |
| 調査結果について | | | <p>・重視度については、「重視の割合が84.1%であることから、この施策に対する県民の期待が高いことがうかがえる。</p> <p>・満足度については、「満足の割合が44.3%で、33の取組の中で7番目に高い数値ではあるが、50%以上の評価を受けている取組が3つあり、5割以上を目標に努力したい。</p> <p>また、「わからない」と回答した割合が、24.4%であることから、事業の周知を今まで以上に進める必要がある。</p> <p>・優先すべき項目として「3R活動の推進のための啓発・普及と取組の促進の割合が43.7%を占めていることから、今後、当該項目に対応する事業に積極的に取組んでいく必要がある。</p> | | | | | |

目標指標等の状況

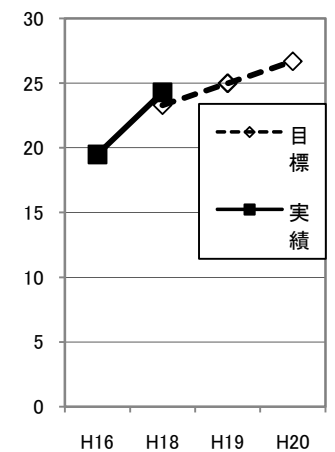
※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

| 1 | 目標指標等名(下段:説明) | 評価対象年度 | 初期値 | H19 | H20 | H21 |
|-----|---------------------------|----------------|-------|-------|-------|-------|
| | 県民一人一日当たりの一般廃棄物排出量(g/人・日) | 指標測定年度 | H16 | H18 | H19 | H20 |
| | | 目標値(a) | - | 1,063 | 1,047 | 1,032 |
| | 県民一人が、一日に排出する一般廃棄物(ごみ)の量 | 実績値(b) | 1,104 | 1,050 | - | - |
| | | 達成(進捗)率(b)/(a) | - | - | - | - |
| 達成度 | | - | A | - | - | |



| | |
|-----------------|---|
| 目標値の設定根拠 | 平成18年3月に策定した「宮城県循環型社会形成推進計画」の中間目標年度(平成22年度)に掲げた目標値1,000g/人・日を根拠とした。 |
| 実績値の分析 | H16、H17、H18の県の状況は、1,104g、1,065g、1,050gであり、目標値に向かって推移している。 なお、H18においては、目標値をクリアしている。※H18の実績値は速報値 |
| 全国平均値や近隣他県等との比較 | H16、H17の国の状況は、1,086g、1,069gとなっている。 |

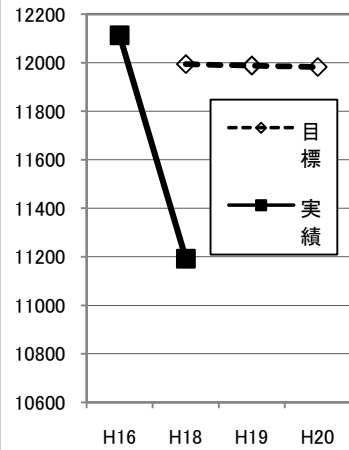
| 2 | 目標指標等名(下段:説明) | 評価対象年度 | 初期値 | H19 | H20 | H21 |
|-----|--------------------------------|----------------|------|------|------|------|
| | 一般廃棄物リサイクル率(単位:%) | 指標測定年度 | H16 | H18 | H19 | H20 |
| | | 目標値(a) | - | 23.3 | 25.0 | 26.7 |
| | 県内で発生する一般廃棄物(ごみ)のうち、リサイクルされる割合 | 実績値(b) | 19.5 | 24.3 | - | - |
| | | 達成(進捗)率(b)/(a) | - | 104% | - | - |
| 達成度 | | - | A | - | - | |



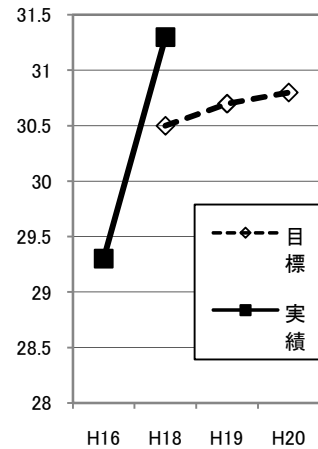
| | |
|-----------------|--|
| 目標値の設定根拠 | 平成18年3月に策定した「宮城県循環型社会形成推進計画」の中間目標年度(平成22年度)に掲げた目標値30%を根拠とした。 |
| 実績値の分析 | H16、H17、H18の県の状況は、19.5%、23.9%、24.3%であり、目標値に向かって推移している。 なお、H18においては、目標値をクリアしている。※H18の実績値は速報値 |
| 全国平均値や近隣他県等との比較 | H16、H17の国の状況は、17.6%、19.0%となっている。 |

| 目標指標等名(下段:説明) | | 評価対象年度 | 初期値 | H19 | H20 | H21 |
|-----------------|---|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 3 | 産業廃棄物排出量(単位:千トン) | 指標測定年度 | H16 | H18 | H19 | H20 |
| | | 目標値(a) | - | 11,995 | 11,989 | 11,983 |
| | 実績値(b) | 12,114 | 11,192 | - | - | |
| | 県内で、1年間で発生する産業廃棄物の総量 | 達成(進捗)率(b)/(a) | - | - | - | - |
| | | 達成度 | - | A | - | - |
| 目標値の設定根拠 | 平成18年3月に策定した「宮城県循環型社会形成推進計画」の中間目標年度(平成22年度)に掲げた目標値11,971千トン/年を根拠とした。 | | | | | |
| 実績値の分析 | H16、H17、H18の県の状況は、12,114千トン、11,180千トン、11,192千トンであり、目標値に向かって順調に推移している。なお、H18においては、目標値をクリアしている。 | | | | | |
| 全国平均値や近隣他県等との比較 | H16、H17の国の状況は、417,000千トン、422,000千トンとなっている。 | | | | | |

(グラフエリア)



| 目標指標等名(下段:説明) | | 評価対象年度 | 初期値 | H19 | H20 | H21 |
|-----------------|---|----------------|------|------|------|------|
| 4 | 産業廃棄物リサイクル率(単位:%) | 指標測定年度 | H16 | H18 | H19 | H20 |
| | | 目標値(a) | - | 30.5 | 30.7 | 30.8 |
| | 実績値(b) | 29.3 | 31.3 | - | - | |
| | 県内で発生する産業廃棄物のうち、リサイクルされる割合 | 達成(進捗)率(b)/(a) | - | 103% | - | - |
| | | 達成度 | - | A | - | - |
| 目標値の設定根拠 | 平成18年3月に策定した「宮城県循環型社会形成推進計画」の中間目標年度(平成22年度)に掲げた目標値31%を根拠とした。 | | | | | |
| 実績値の分析 | H16、H17、H18の県の状況は、29.3%、30.2%、31.3%であり、目標値に向かって順調に推移している。なお、H18においては、目標値をクリアしている。 | | | | | |
| 全国平均値や近隣他県等との比較 | H16、H17の国の状況は、29.5%、30.1%となっている。 | | | | | |



施策評価(総括)

| 施策の成果(進捗状況) | 評価 | 評価の理由 |
|--|----|--|
| <p>・目標指標等、県民意識調査結果、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたか(「目標とする宮城の姿」に近づいているか)。</p> | 順調 | <p>・4つの目標指標等、すなわち、1. 県民一人一日当たりの一般廃棄物排出量、2. 一般廃棄物リサイクル率、3. 産業廃棄物排出量及び4. 産業廃棄物リサイクル率について、全て当該年度の目標を達成しており、目指す方向に推移している。 ・県民意識調査結果からは、重視度については84.1%と県民の期待が高かった。満足度については44.3%で、50%に達しなかった。[参考:50%以上の評価を受けている取組は、33のうち3つ。] ・社会経済情勢等からは、全国的に循環型社会の形成に向けた様々な取組を行っているところであり、本県でも、「みやぎの循環社会」の形成に向けて、積極的に事業を展開している。 ・事業の実績及び成果等からは、15事業のうち9事業において実績値が成果目標値に達しており概ね順調と言えるが、残る事業においては、引続き積極的な事業を展開していく必要がある。 ・施策の目的である「資源循環の重要性や3Rの意識」が、目標指標等の状況から見ても県民や事業者に浸透しており、施策の進捗状況は順調であると判断する。</p> |

施策の課題等と対応方針

| ①事業構成について | 事業構成の方向性 | 方向性の理由 |
|---|----------|--|
| <p>・施策評価の結果、県民意識調査結果、社会経済情勢及び事業の分析結果(必要性・有効性・効率性)から見て、施策の目的を達成するために必要な事業が設定されている。事業構成を見直す必要はない。</p> | 現在のまま継続 | <p>・施策の進捗状況については、目標指標等に対する達成状況等から見て概ね順調であると言える。 ・特段の事業構成の見直しの必要性は無いと考えているが、県民意識調査結果では、満足度において、「不満・やや不満」が31.2%、また、「わからない」が24.4%であることから、県民の関心・理解を深めるための啓発・普及活動を重点的に行う必要がある。</p> |
| <p>②施策を推進する上での課題等 ※施策が直面する課題や改善が必要な事項等(①の事業構成に関する事項を除く。)</p> <p>・産業廃棄物及び一般廃棄物(ごみ)に対する取組は概ね順調であると言える。</p> | | |
| <p>③次年度の対応方針 ※①及び②への対応方針</p> <p>・当該年度の目標値を達成しており、次年度においても着実に当該事業を実施することとする。</p> | | |

施策を構成する事業の状況

(事業分析シートより)

| 事業の状況 | | | | | 事業の分析結果 | | | 次年度の方向性 | | |
|-------|--|--------------------------|-----------------|------|-------------------------------|--------|------|------------|-------|------|
| 番号 | 名称 (担当部局・課室名) | 県事業費 (決算見込、 単位:千円) | 活動の状況 (活動指標) | | 成果の状況 (成果指標) | | ①必要性 | | ②有効性 | ③効率性 |
| 1 | 3R推進普及啓発演劇上演事業 環境生活部・資源循環推進課 | 7,847 | 上演回数(回) | 20回 | 観劇者数(人) | 4,427人 | 妥当 | ある程度成果があった | 概ね効率的 | 維持 |
| 2 | 3R推進市町村等支援事業 環境生活部・資源循環推進課 | 268 | 会議開催回数(回) | 2回 | 3Rに関する新たな取組みを始めた重点市町村数の累計(市町) | 3市町 | 概ね妥当 | ある程度成果があった | 課題有 | 維持 |
| 3 | 循環通信の発行 環境生活部・資源循環推進課 | 非予算手法 | 循環通信発行回数(回) | 12回 | 循環通信受信者数(人) | 437人 | 妥当 | ある程度成果があった | — | 維持 |
| 4 | マイバッグキャンペーンの実施 環境生活部・資源循環推進課 | 非予算手法 | 協力要請団体数(団体) | 66団体 | 実施団体数(団体) | 27団体 | 妥当 | ある程度成果があった | — | 維持 |
| 5 | 産業廃棄物発生抑制等支援事業 環境生活部・資源循環推進課 | 89,673 | 支援事業者数(件) | 6件 | 補助事業により発生抑制された量(千t) | — | 妥当 | 成果があった | 概ね効率的 | 維持 |
| 6 | 企業連携型リサイクルシステム構築支援事業 環境生活部・資源循環推進課 | 1,548 | 対象事業数(件) | 4件 | 企業連携に取り組んだ事業者・団体数(社) | 45社 | 妥当 | 成果があった | 概ね効率的 | 維持 |
| 7 | みやぎエコファクトリー立地促進事業 環境生活部・資源循環推進課 | 536,312 | 補助金交付件数(件) | 9件 | 総立地企業数(増設等含む)(社) | 14社 | 妥当 | 成果があった | 概ね効率的 | 維持 |
| 8 | 地域におけるバイオディーゼル燃料利活用推進事業 環境生活部・資源循環推進課 | 5,000 | 普及啓発事業等実施件数(件) | 4件 | BDF利活用の組織的取組件数(件) | 27件 | 妥当 | ある程度成果があった | 概ね効率的 | 維持 |

| | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------------|-----------|----------------------|----------|--|---------|------|------------|-------|----|--|
| 9 | 3R新技術研究開発支援事業 | 21,215 | 3R新技術の研究開発取組数(件) | 5件 | 3R新技術の事業化、実用化件数(件) | — | 妥当 | ある程度成果があった | 概ね効率的 | 維持 | |
| | 環境生活部・資源循環推進課 | | | | | | | | | | |
| 10 | 資源循環コーディネーター派遣事業 | 25,100 | 事業所等のべ訪問数(社) | 386社 | 地域リサイクルシステム(エコフォーラム)構築数(件) | 10件 | 妥当 | 成果があった | 概ね効率的 | 維持 | |
| | 環境生活部・資源循環推進課 | | | | | | | | | | |
| 11 | 業種別エコフォーラムの展開 | 非予算手法 | 事業所訪問数(社) | 386社 | 業種別エコフォーラム構築数(累計) | 1業種 | 妥当 | ある程度成果があった | — | 維持 | |
| | 環境生活部・資源循環推進課 | | | | | | | | | | |
| 12 | 下水汚泥燃料化施設建設事業 | 492,400 | 下水汚泥燃料化施設建設(千円) | 492400千円 | 下水汚泥リサイクル率(%) | 28% | 概ね妥当 | ある程度成果があった | 概ね効率的 | 拡充 | |
| | 土木部・下水道課 | | | | | | | | | | |
| 13 | 産業廃棄物処理業者指導強化事業 | 1,460 | 全処理業者を対象とした講習会の開催(回) | 4回 | 処理業者講習会に参加した事業者数(事業者) | 253事業者 | 妥当 | 成果があった | 効率的 | 維持 | |
| | 環境生活部・廃棄物対策課 | | | | | | | | | | |
| 14 | 産業廃棄物処理システム健全化促進事業 | 1,843 | 産業廃棄物処理システム検討会の開催回数 | 3回 | 産業廃棄物の適正処理推進に関する協定(産廃と環境の協定)締結事業者数(事業者数) | 17事業者 | 妥当 | 成果があった | 効率的 | 拡充 | |
| | 環境生活部・廃棄物対策課 | | | | | | | | | | |
| 15 | 産業廃棄物不法投棄監視強化事業 | 6,007 | 本事業で実施した監視のべ日数(日) | 163日 | 不適正処分された産業廃棄物の残存量(仙台市内及び竹の内産廃処分場を除く) | 116,499 | 妥当 | 成果があった | 効率的 | 拡充 | |
| | 環境生活部・廃棄物対策課 | | | | | | | | | | |
| 事業費合計 | | 1,188,673 | | | | | | | | | |